

# 2022年度の教育活動等に対する学校評価書

2023年3月28日  
 学校法人聖隷学園  
 聖隷クリストファー大学附属  
 クリストファーこども園  
 園長 武田 真理子  
 聖隷クリストファー大学附属  
 クリストファーこども園  
 学校関係者評価委員

## 1. 園目標

<愛>	神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にする気持ちをもつ。
<思いやり>	様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
<たくましさ>	自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
<いのち>	食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
<表現力>	自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
<自立>	生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

## 2. 2022年度の重点課題（事業計画）

2022年度重点目標	① 建学の精神の理解とキリスト教保育に基づいた園運営及び教育・保育活動の実施 ② 既存施設・設備の使い方の見直しと 0-1 歳児棟の増築検討（園舎・園庭等を含めた全体的な見直し～2024 年度まで継続、2025 年度工事予定） ー満 3 歳児定員増を踏まえた全体的な園舎・園庭等の使い方の見直し ー0-1 歳児保育・環境の見直し⇒0-1 歳児棟増築の検討 ③ 3 歳児の定員確保（満 3 歳児クラスの充実）、情報の内容に応じた広報媒体の見直し ー専門的知識・技術を活用した広報、情報発信を行う ④ PYP 認定に向けて（3 年計画の 2 年目） ーPYP 認定申請のスケジュール作成（随時見直し・更新）・実施 ー職員に対する PYP 研修の実施、異文化・異言語プログラム（活動内容）の見直し ー小学校との PYP 教育プログラムの連携と協働 ⑤ 森を活用した自然活動の実施（3 年計画の 3 年目） ー課内イングリッシュ活動を森で実施し、探究的な学びを深め、SDGs への関心を高める ⑥ 園庭の再構成（3 年計画の 1 年目） ー園舎増築を見据えた園庭整備の計画作成と実施 ー現状設備の点検及び危険箇所等の整備（継続） ⑦ 子育て支援環境の充実、職員研修の実施 ⑧ 専門性や得意分野に合わせて各リーダー、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。（継続） ー確保が困難な時間帯（早番・遅番）に勤務する職員の時給改定 ー保育補助スタッフの充実（ICT、記録スタッフ・無資格者の資格取得応援） ⑨ 園で定めた研修テーマに係る研修及びキャリアアップに係る自主的な研修の受講を支援する。 ー園で定めるテーマに関する研修への職員の積極的な派遣 ーキャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）	重点目標 対しての 評価	① 個人の学びにとどまってしまうので、聖書を深く読み取ることができるよう、牧師先生が参加する研修の定期的な実施を工夫する。 ② 今年は、保育方法の学びが主となり、環境構成への学びが不十分だった。 ③ インスタグラム、ブログの担当を決め、積極的に発信を行った。 ④ 研修を機に、自分たちでユニットを作れるようになるまで成長した。子ども達の学びが、アクションとなって見えるまでには至らなかったが、探究を深めていくうちに自発的な行動へと繋がるよう活かしていきたい。 ⑤ 研修により、担当者の意識も高く、質の高い森での経験が出来ている。 ⑥ 講師を招いた研修は 1 回となったが、その分、職員同士で園庭内のヒヤリハットを見つけ、速やかに修繕することができた。 ⑦ 特色あるイベントの実施などにより、少しずつ保護者にも周知されてきているが、近隣への周知は十分ではない。地域に拓かれた子育て支援を目指したい。 ⑧ 補助金を活用した ICT(iPad)の充実により業務の効率化を図ることができた。 ⑨ 研修書籍購入を補助し、共通の書籍を通しての学び合いができた。
------------	---	--------------------	--

## 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価（※評価は、○・・・目標どおり達成できた、△・・・十分に達成できていない・次年度の課題である、で表している。）

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取り組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
教育・保育方針	「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」の理念に基づき、スタッフ（教職員）が一致協力して、個々のこどもの発達段階や状況に応じたきめ細やかな援助・指導を行い、健やかな心身の成長発達を育む。	少人数保育、専門性の強化を実施する。	スタッフ間の連携・チーム作り  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">重点項目⑧</div>	・専門性や得意分野に合わせて各リーダー、メンター、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。（継続） ・ICTの専門的知識・技術の導入と活用 ・職員の ICT スキルアップのための研修を行う。 ・保育補助スタッフの充実を図る。（ICT、記録スタッフ・無資格者の資格取得応援）	○	・PYPのユニットを行うにあたり、部屋や保育を工夫して少人数での保育を実践することが出来た。子ども一人一人にスポットが当たり、子ども達の思考や発言などに変化が見られた。しかし部屋の使い方は課題となっているため、次年度以降継続するための、部屋の使い方を検証する必要がある。 ・玉永先生を中心に、はごろも教育研究助成賞でiPadを導入することが出来た。未満児ノートの記入や、園児数確認において効率的で安全な事務作業を行うことができ、おおいに役立った。	○	・信頼関係が育まれていくために相応しい集団の規模があるのだと思います。園全体の人数が決って小さくない中で、空間と集団を分けながら工夫していくしかないと思います。 管理上求められる記録を効率よく整え活用していくためにデジタル技術の活用はその一助となると思われます。メリットを十分に生かしつつ、デメリットになるところがないのかも心に留めておきたいところです。 ・聖隷ならではの教育に期待しています。

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取り組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
教育・保育方針	「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」の理念に基づき、スタッフ(教職員)が一致協力して、個々のこどもの発達段階や状況に応じたきめ細やかな援助・指導を行い、健やかな心身の成長発達を育む。	キリスト教保育について理解を深める  <b>重点項目①</b>	聖書(み言葉)について学ぶための機会を設ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育教諭が聖書物語を子ども達に語るができるように、研究・準備をする。</li> <li>自主的な聖書の学びの会を持つ。</li> <li>基本理念をよく理解し、キリスト教保育に基づいた教育保育活動や園運営に取り組む。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育教諭はそれぞれが、資料などを参考にし、聖書のお話ができるよう準備することが出来た。しかし、一部の資料による個人の学びにとどまってしまったので、聖書を深く読み取ることが出来なかった。学びの会をどこかの時間で出来ると良かった。クラス会議のはじめに研修を入れているので、その時間に入れることができると良い。牧師先生が来てくれるといいのだが…。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キリスト教保育とは何か」というのは、奥の深い問いだと思います。聖書物語を子どもに語るができるのか、絵本や紙芝居を読んで伝えることも意味がないわけではありませんが、できればその物語から保育者自身がメッセージを受けとめつつ語ることができれば幸いです。そのためには聖書の学びだけでなく、自分自身で神さまの思いへ心向けつつ読みたいものです。</li> <li>大切なことですが、先生たちの負担が増すことのないような時間の設定や、短時間でも聖書の話と共有できるような方法を取れるといいと思う。</li> </ul>
特色ある保育の展開	戸外や自然の中でのダイナミックな体験活動ができるよう、計画・実践・評価を行う。	安全かつチャレンジできる園庭を造る  <b>重点項目⑥</b>	園庭の再構成(3年計画の1年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師(井上寿先生)の年間実施計画を立て、園庭の整備及び時期活動計画の策定をする。(2023/1/8)</li> <li>園舎増築を見据えた園庭整備の計画を作成する。</li> <li>保護者の理解と協力を得るよう働きかける。研修及び整備のための作業(園庭ボランティア)を行う。(年2回程度)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は井上先生のワークショップは1回のみとなったが、その分、職員同士でヒヤリハットを見付け、速やかに修繕することが出来た。</li> <li>朝から、園庭で受け入れを始めたことにより、戸外へ出る時間も早まり、十分に運動遊びが出来る環境と日課が整ったことが良かった。</li> <li>異年齢で遊ぶことにより、大きい子から刺激を受け、様々な運動遊びが低年齢化している。次年度は子ども達の学び合いを、より意図的に整えていきたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちにとって、園庭(戸外)は、好奇心に促されて新しい体験へ向かう入口かも知れません。子ども一人ひとりが、また子どもたち同士で、楽しい活動への興味が感じられるよう、保護者と協力しつつ環境を整備していくことは良い取り組みだと感じます。</li> <li>園庭側から登園すると、大きい子が小さい子のお世話をする姿が見られ、ほほえましいです。</li> </ul>
		子どもたちのセンス・オブ・ワンダーを育むための環境を整備する。  <b>重点項目⑤</b>	森を活用した自然活動の実施(3年計画の3年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>課内イングリッシュ活動を森で実施し、探究的な学びを深め、SDGsへの関心を高める。</li> <li>森の敷地内で屋内活動場所を整備し、子どもたちの学びの活動環境を整える。</li> <li>職員研修を実施し、森の活動についての理解を深める。</li> <li>保護者の理解と協力を得るよう働きかける。(情報提供、ボランティア)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>森の家を修繕する計画があったが、時間と予算の都合で出来なかった。次年度以降の計画に入れたい。</li> <li>森の計画的な活動が2年目となり、担当者の意識も高く、質の高い森での経験が出来ている。今後、小西先生の研修を受け、持続可能な命のサイクルについて、森と園とを繋げ、子ども達がより身近に学べる環境作りに取り組みたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>教会の所有地を有効に活用して下さることは嬉しいことですが、教育・保育の場として活用するためには、日頃からその場所をよく知っていて、必要な指導・助言をしてくれる存在が必要なような気がします。こども園のスタッフでそれを考えるのは限界があると感じます。教会としても、現在、目配りしてくれている方の後継者のことは課題だと感じています。</li> </ul>
	大学や地域の専門家・専門機関との連携により学問的根拠に基づく保育の展開を行う。	発達に関する課題に沿って、大学や専門家と共に実践的研究を行う。	運動遊びを通して身体的発達を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアキッズ体操、室内・屋外遊具などでの遊びを中心に、身体的機能を高める遊びを保育に取り入れて実践する。</li> <li>運動発達の測定を行い、育ちについて可視化し、保護者にフィードバックする。</li> <li>感覚-運動発達がどのように認知、非認知能力と関係するか、その道筋をたどり各年齢の保育でどのような手だてをとると良いのかを研修する。(講師：聖隷クリストファー大学 和久田佳代准教授、伊藤信寿教授)</li> <li>保育の在り方について考察し、保護者と共有する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>和久田先生の研究により、5歳児クラスの体力測定を行った。コロナ禍であっても、子ども達の運動機能が十分に発達しているという結果を得ることが出来た。この要因としては森での活動の充実や、園庭プロジェクトの整備が進み、子ども達のコア(運動機能)の育ちを保障する環境が整ってきたことがあげられる。しかし子どもによっては偏りがあるため、今後、一人一人への更なるアプローチが必要。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家から理論的な学びができることは、恵まれた環境にあると言えます。それによって保育者自身の視野が広がり、日常の保育の中に取り入れられるよう取り組めるとよいと思いました。</li> </ul>

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取り組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
特色ある保育の展開	大学や地域の専門家・専門機関との連携により学問的根拠に基づく保育の展開を行う。	発達に関する課題に沿って、大学や専門家と共に実践的研究を行う。  <b>重点項目⑨</b>	言語・想像力を獲得するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や物語を楽しみながら遊びの世界を広げ、言語感覚・想像力を育む。</li> <li>高山静子先生（東洋大学ライフデザイン学部教授）の研修を基に、子どもの発達や保育のねらいに応じた絵本の選別や絵本を文化として捉えるための研修を実施し、職員間の共通認識を図る。（継続）</li> <li>野藤弘幸先生（NPO 法人クローバー自立支援センターしまもと）の園内研修（年3回）を実施し、一緒にアセスメントを行い、子ども達に対する今後の捉え方・関わり方などについて理解を深める。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年はオンラインで絵本の研修を3回行った。またこどもの友社の紹介により、絵本作家の話を聴く機会を得た。絵本が好きな職員を中心に、自主的な絵本の学びが広がりつつある。絵本の整理も少しずつ進んでいる。こどもの友社と協力し、足りない絵本を補い、絵本コーナーや職員研修を引き続き充実させていきたい</li> <li>今年は、野藤先生の研修がとても充実していた。ほとんどの職員が、野藤先生の本を購入し、本を中心に事例を出し合い、考察することが出来た。園内研修では、発達支援が必要な子とその保護者の理解が深まり、より丁寧な支援をすることができるようになった。引き続き学びを深めたい。</li> <li>高山先生の書籍を研修本とし、発達の連続性を念頭に、カリキュラムを構成し保育実践に生かしたい。また専門知識を基に、保護者にも子どもの育ちを可視化して発信していくのに多いに役立てたいと思う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>権威ある先生方からの学びは、保育者の自信につながるのではないと思われるが、子どもたち自身の理解、表現にどのように変化をもたらせているのだろうかと思いを巡らしている。</li> <li>保育活動の中で、取り組んでおられると思うが、子どもたちの日常で発せられる「ことば」の収集から学ぶこと、感心するようなこともきっとあるのだろうと思った。</li> <li>保護者の中には反対の方もいるかもしれないが、絵本の定期購読は賛成です。どれを選んでよいか分からない、選ぶ時間に余裕がないので、園でセレクトしてもらえると助かります。子ども同士や先生、保護者とのコミュニケーションの一つになることを期待します。</li> </ul>
	聖隷クリストファー小学校との接続を考慮しての教育内容を検討し、実施する。	国際的感覚や外国語に対する関心を広げる  <b>重点項目④</b>	PYP 認定校に向けて（3年計画の2年目）	<b>継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>PYP 認定申請のスケジュール作成（随時見直し・更新）、実施</li> <li>異文化・異言語プログラム（活動内容）の見直し</li> <li>職員に対する PYP 研修の実施</li> <li>小学校との PYP 教育プログラムの連携と協働</li> <li>保護者への説明、地域のニーズ調査の実施</li> <li>IB と SDGs の考え方を基に、キッチンとの連携による食品ロスについての学びを深め、具体的な取組みを検討し実施する。</li> </ul>	△ ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>PYP チームを中心に、全ての職員が学びを深めることが出来るよう、様々な企画をし研修などを行った。夏の研修を機に、自分たちでユニットを作れるようになるまで成長した。課題は時間の確保だった。1人でも多くの職員が参加できるよう、安定した時間と空間を確保する必要がある。まだ学びが不十分だが、それぞれの職員が努力した。</li> <li>子ども達の学びが、アクションとなって見えるまでには至らなかった。しかし数年かけて探究を深めていくうちに自発的な行動へと繋がっていくのではないと思う。また今年のユニットの反省を来年活かしていきたい。</li> <li>異言語についての検証は十分ではなかったが、今年新たな取り組みは行なえた。次年度に繋げたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際バカロレアの認定が得られるようにというのは、具体的な目標として重要な課題なのだと思うが、これから社会的に評価され、期待される保育・教育の取組みのために必要なことだと思うが、取り組んだことがすぐに効果として現れることと、なかなかそうならないことがあるような気がする。現れた（目に見える）結果に一喜一憂しないで、一日一日地道に取り組んで行かれることでよいのではないと思った。</li> <li>大学も交えて学園全体で IB について共同で実践研修が進められるようにしていきたいし、そのような機会を設けるなど体制を整えたい。</li> </ul>
保育環境の充実	健全な発育・発達や充実した学びのための環境をつくる。  <b>重点項目②</b>	保育室の環境の見直し改善を図る	0～2 歳児クラスの保育環境(育ちや学びを支える)について研修し、実行に移す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育者が園内研修から気づいたことをもとに、保育室の環境を改善させ充実させる。</li> <li>満3 歳児クラス拡充による保育室の再構成と、0～1 歳児の保育環境の見直しを行う。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年は、保育方法の学びが主となり、環境構成への学びが不十分だった。</li> <li>ながかみ保育園へ未満児クラスの保育者が交代で見学に行き、同じ環境を見ることができたことで、全員がより積極的に意見を出し合い、話し合いを深めることができた。次年度への保育へ活かしていきたい。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>0～2 歳児は、特に場所や物（遊具）等の環境よりも、安心できる人間環境と栄養に気を配りたいと感じる。ゆったりとした時間の流れの中で、子どもたちに向き合いたい。</li> <li>3歳以上の子どもたちと空間を分けるメリットもあるが、年長児が自分より小さい子どもとの交流することで芽生える感性もあるのではないと思う。</li> </ul>
子育て支援・保護者との連携	子どもの望ましい成長・発達について保護者の理解を促し、共に成長を支える。	日々の園での子ども様子を丁寧に伝え、意見交換を行う。	ラーニング・ストーリーを活用する。	<b>継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の子どもたちのラーニング・ストーリーから育ちや学びを捉え、保護者懇談会の資料として活用する。保護者からのフィードバックも参考にしながら、次の保育の手立てを考える。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>以上児クラスは、ラーニングストーリーと、PYP のエビデンスとを、どのように融合させたらいいか、分からず、手探りで1年が終わった。次年度に向けて整えていきたい。</li> <li>未満児クラスは、個別の目標や、生活遊びなどに分けて書くことにより、見やすくなっている。日々の保育については、ドキュメンテーションを公開する予定だったが、計画倒れとなり、なかなか進まなかった。次年度検証が必要である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識として学んだ保育の手法が、スキルとして身につくまでの課程の中で、戸惑いにつながることは何となくわかるように感じた。</li> <li>日常の子どもたちの現れを言語化しつつ、その成果をカテゴリー化して評価に繋がらないだろうか。</li> <li>保護者を意識した記述にして、保護者とも共有・対話できるといいと思う。</li> </ul>

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取り組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
子育て支援・保護者との連携	保護者や地域子育て家庭のニーズを理解し、適切な子育て支援内容を計画・実施する。	子育て支援の充実 重点項目⑦	子育て支援環境の整備、支援内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>0～2歳児の定期的な受入れを行い、1号認定入園につなげる。</li> <li>プログラム・環境の整備を行う。</li> <li>担当者の研修を行う。</li> <li>学童保育実施に向けての検討</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週水曜日に、あゆみ先生を中心に子育て支援を行うことが出来た。様々なイベントも開催し、少しずつ保護者にも周知されてきているが、近隣への周知は十分ではない。地域に拓かれた子育て支援を目指したい。</li> <li>ジェシー先生によるイングリッシュ体験は特に人気があり、大勢の保護者の入園への期待が高まった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域での子育て支援は、子育て世代の孤立化を防ぐ役割が大きく、行政の母子保健担当者、地域の民生児童委員等との情報の共有も含めて取り組んでもらえると嬉しい。</li> </ul>
入園児募集	聖隷学園やクリストファーこども園の保育が地域や保護者にさらに理解されるように働きかけ、共に子どもの育ちを支える意識を高める。	定員の確保・説明会、見学会等の実施。広報（ホームページ等）の充実 重点項目③⑦	ホームページ・ブログ等を活用した募集・広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTに関する専門的な技術・知識を活用して、ホームページやブログの配信など、ステークホルダーに届く広報活動を展開する。</li> <li>ホームページの内容を随時見直し、閲覧者が園や学校に足を運ぶよう工夫する。</li> <li>ホームカミングデーの実施、小中高大接続を意識した広報の活用。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>インスタグラム、ブログの担当を決め、積極的に発信を行った。子ども達の顔を載せずに、様子を伝えることは技術が必要だったが、担当者がクオリティの高い動画や写真、コメントなどで発信を続けた。入園希望者の中には、インスタで関心を示した人も多くいた。担当者が変わっても、継続して良いものが発信できるよう、他職員も学べるといい。</li> <li>ホームページをリニューアルし、インスタグラムにつなげたことにより、より多くの保護者の目に留まるようになった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを活用した情報発信は、今の時代には欠かすことのできない重要な手段となっているが、入園を検討するときには、卒園生、在園生の保護者等からの「評判」が最も説得力のある情報になるのではないかと思う。園からお願いするわけにいかないが、在園生、卒園生とその保護者が、園に愛着をもってもらえるような日常の保育、情報の発信が肝要と感じる。</li> <li>素晴らしく、大学の授業や研究会で紹介している。静止画でも動画でも園の方針や先生方の子どもを見る目の豊かさが感じられる。</li> </ul>
安全管理・危機管理	災害時や園児の病気・事故、不測の事態に備えて、具体的な対応策の確認と訓練の実施	不測の事態・危機管理体制の充実を図る	保育安全マニュアルの見直し・更新を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策の徹底（継続）</li> <li>随時保育安全マニュアルの見直しを行う。</li> <li>各訓練（防災、不審者、園バス運行、園外保育など）の実施と役割の明確化、訓練後のマニュアル更新と職員への共有・周知を行う。</li> <li>不測の事態に備えた保護者への速やかな連絡システムの構築</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイズコロナの中、感染症対策は行ってきたが、2度に渡り多くの感染者が出てしまった。子どもたちの活動が制限されることはなかったが、広がる前に出来る対策について、今一度検証が必要である。</li> <li>裾野市での園バス事故を受け、県主催の研修を受講、職員間の話し合いを行い、園児の受入れマニュアル（登園時・降園時・出欠確認）の見直しを行った。各担当者の役割を明確にし、確実にダブルチェックできる体制を整えた。ちょっとした気付きや違和感を声に出し、職員同士で共有することを確認した。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策については、基本的な対応の手順や方法などについて、日頃より理解しておくことが大切だと思うが、今回のコロナウイルスへの対応について、結果論で悲観することはないと思う。さまざまな規制について、行政の指示に合わせることは避けられないが、日頃から危機管理の意識をもてるように心掛けておきたい。</li> </ul>
スタッフの資質向上・連携	保育・教育専門職者として意識を持ち、研鑽に努める。	主体的な研修と学びの促進 重点項目⑨	各職員のキャリアアップのための、自発的な研修を促す。	<u>継続</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）</li> <li>オンラインによる研修の実施、研修視聴環境の整備</li> <li>資格取得支援</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアアップは、保育に大きな穴をあけることなく、順番に参加することが出来た。保育の基本を再確認する良い機会となったことが報告されている。</li> <li>オンラインでの研修も充実してきており、職員が効率よく参加することができた。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンパワーの確保が難しい時代、職員のモチベーションを維持し、まずは一人ひとりブラッシュアップされていくことが大切だと思う。</li> </ul>
			園内研修を定期的実施する。	<u>継続</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>園で定めるテーマ（自然活動、言語・想像力の獲得）に関する研修への職員の積極的な派遣</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年は互いの学び合いのための園内研修を持てたが、今年は継続できなかった。しかし、未満児、かぜの保育者中心に、何度もながかみ保育園へ見学に行くことができた。同じものを見て、様々な気付きを得ることが出来た。今年度、後半の保育と次年度に繋げたい。</li> <li>園内研修は不十分だったが、以上児クラスはPYPのユニットについて話し合う時間を作ることができた。</li> <li>常に学年間で保育を振り返る時間を作り、必要な時は計画を立て直し、子どもの育ちについて考えることができた。</li> <li>短時間勤務の職員の参加が難しかった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告をお聞きする限り、職員の研修は積極的に精力的に取り組んでおられると感じた。</li> </ul>

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取り組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
スタッフの資質向上・連携	保育・教育専門職者として意識を持ち、研鑽に努める。	保育者としての責務と倫理を理解する。	園児や保護者との適切な関わりについて共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を尊重した関わりの共通理解と実践</li> <li>・講師を招いての園内研修（ハラスメント研修を兼ねる）の実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月の末に、全員が不適切な保育についての研修を受けた。また自分たちを振り返るためのアンケートを実施しており現在集計中である。2月には専門家を招いて、虐待の研修を実施した。研修を受け改めて、自分たちの保育を振り返ると同時に、虐待が起こりにくい環境作りについても検証し、見直していきたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政からの指導で、形の上での研修は、どこの園でも取り組むであろうが、人間としての尊厳、人格の尊重などについては、それこそキリスト教保育の根幹であると思うので、これまでどおり大切にされたらよいと思う。</li> </ul>
園経営全体の向上	働き方改革一定時退勤を目指して、タイムマネジメントができるように支援	学園の働き方改革推進	保育準備・事務的作業の環境整備 ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した職員の情報共有、会議や記録等の簡略化を行う。</li> <li>・タイムマネジメントを意識した個人作業スペースの整備を行う。</li> <li>・ICTによる勤務時間の管理、時間外労働時間の把握</li> <li>・ノンコンタクトタイムの確保と勤務時間内での作業効率化</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に比べ、ICTの活用や、作業スペースの活用などにより、効率化を生み出したが、特に短時間職員においては、記録等のための時間が十分に確保できなかった。今後、PYPの話し合いの時間も含め、様々な働き方の職員チームがどのように時間を生み出すのか、大きな課題である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方についても、政策的な意向により行政から数値化できる成果をもとめらるが、大切なのは働く人たちが過重なストレスを感じないための配慮がなされることであり、職員個々の事情にも配慮しつつ、職員全体で支え合えるチームづくりがなされると良いと思う。</li> </ul>